

一人一人の思いや願いが 生きる総合的な学習の 実践

茨城県つくば市立竹園東小学校

よし だ ひろし
吉田 浩

【実践の概要】

竹園東小学校では、校内ネットワークを職員による手作業で構築し、「いつでも、どこでも、たれもが」インターネットを使える環境を整えた。総合的な学習の時間に、それらを有効に活用し、学年内の友だちや異学年の友だち、他の学校の人たち、専門家の人たちなどと意見交換をして、自分の考えを深める活動を通して「一人一人の思いや願いが生きる総合的な学習」の実践を行った。ここでは、6年生の「卒業研究」の実践を紹介する。

【論文内容の紹介】

1 主題設定の理由

本校では、平成8年度より「一人一人の思いや願いが生きる総合的な学習」の実践を行ってきた。しかし、子どもたち一人一人の思いや願いは様々で、それらに応える情報収集が図書室の図書などだけでは解決できず、苦勞してまとめあげたものも、児童が完全に満足のいくものではなかった。

そこで、校内やインターネットを有効に使うことにより、様々な情報を得ることができ、コミュニケーションの輪も、学校や学級内だけではなく校外にも広がり、自分の疑問を深めたりすることができ、子どもたちの多様な課題や疑問にも対応できると考えた。

2 活動の実際（6年生／卒業研究）

6年生では、自ら学び、自ら考え、主体的によりよく問題を解決する資質や能力を伸ばすために、個人で課題を持ち、一人一人がテーマを設定する「卒業研究」に取り組んだ。

(1)テーマ設定・計画立案

テーマ設定に2か月の時間を使ったが、その間ネットワークを使って、子どもたちは意見交換を行い、自分たちのテーマや計画を立案していった。

(2)リサーチ活動

子どもたちは、それぞれの研究計画に従って、リサーチ活動を進めた。リサーチ活動を進めていくと、ほとんどの児童が新たな壁にぶつかった。

(3)ネットワークを使っでの意見交換

リサーチ活動での子どもたちの悩みを解決したのが、様々なネットワークを使った意見交換である。それらを紹介する。

- ・6年生全員でネットワークを使った意見交換を行った。
- ・他校の人と意見交換をし、考えを比較した。
- ・メールを使って、専門家からアドバイスを受けたり、質問をしたり、交流を行った。

(4)再調査、再思考、まとめ

意見交換の足跡の一つ一つを見直ししながら、自分の学習の方向性を見いだしていった。

(5)デジタルポートフォリオの作成

自分たちの学習の過程や評価を、もう一度整理し直した。プレゼンテーションの動画なども残すことができた。

3 ネットワークを活用した成果

- ・ネットワークを使うことで、子どもたちの思いや願いをかなえる総合的な学習が実践できた。
- ・意見交換の記録がコンピュータに残ることによって、時間をかけて振り返ることができ、課題意識も明確になり、自分の考えを深めることができた。

4 最後に

児童一人一人が課題を設定し、自ら立てた計画に沿って問題解決をするような学習は、ネットワークがなかった昨年であつたら、成立しなかった。ネットワークを使うことで、総合的な学習が大きな変容を見せた。